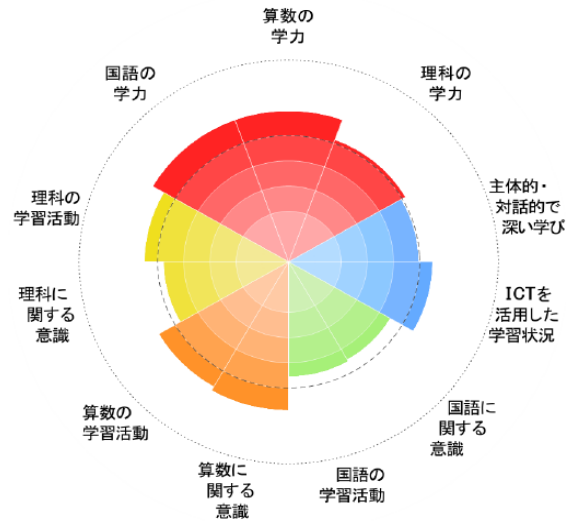


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。

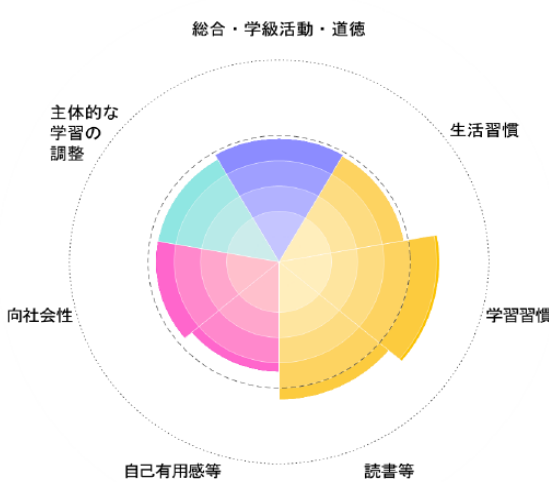
【教科を中心とした学力・学習状況】

(全国基準)



【その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）】

(全国基準)



B113212300160_08全国学力・学習状況調査結果チャート（学校）より抜粋

《チャートの特徴》

各項目の肯定的回答の割合について、以下のようなことが言える。

- ・国語・算数・理科の学力は、全国を上回っている。一方で、国語や理科の学習意識については学力と比較して低くなっている。
- ・自己有用感、向社会性、主体的な学習の調整については、全国をやや下回っている。
- ・学習習慣の定着状況は、全国を上回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・家庭学習は、学力の基礎を身に付けるために大切です。自ら学習する習慣や、学習した内容が身に付いているか、確かめてください。
- ・登校時刻を守ること、自分で身支度をするなど生活習慣が、楽しく学校生活を送るための土台となります。
- ・読書への関心が、学習意欲につながります。図書館を活用して、親子で読書を楽しむ機会を作ってください。
- ・学校生活の悩みは、まずは受け止め、子供自身が教員に相談できるように、背中を押してあげてください。

《現状把握》

・国語、算数の学力は全国・都平均を上回る結果となりました。理科は、全国平均を上回ったものの、都平均を下回る結果となりました。

・主体的な学びにおいては、自分で学び方を工夫したり、対話を通して学び合ったりすることについて、肯定的回答が少ない結果となりました。

・国語の学習意識について、教師の指導と比較して、「得意」「好き」「分かる」といった自己に対する内容について、肯定的回答が少ない結果となりました。

・自己有用感の項目では、困りごとや不安を相談したりすること、学校に行くのが楽しいかについて、全国よりも肯定的回答が少ない結果となりました。

⇒以上より、児童が楽しく工夫しながら学び、身に付けた力を働かせることで、その良さを感じ、自信を得ることができるような、教科横断的な授業改善が課題であると考えられます。

《授業改善のポイント》

児童の主体的な学びを通して確かな学力が身に付く学習を実現し、各教科の枠を超えて、学ぶ楽しさや良さを感じることができるようしていきます。

①単元や教材を通して、児童がどんな力を身に付けるのか、そのためにどんな学習過程が必要か、教材研究を通して明確化していきます。

②児童が自ら課題を見出し、解決の過程を見通しながら学ぶことができるように、教師の適切な役割や支援策を明確にした授業を行います。

③算数科や理科では、教科の見方・考え方を働かせながら知識を活用して考える学習を通して、概念的な知識を習得できるようにしていきます。

④教科等で身に付けた力を児童が自ら活用できるように、探究的な学びを充実させ、自分なりに学ぶ楽しさや、学び方に対する自信をもてるようにします。

⑤特別の教科「道徳」では、日常的な道徳教育と結び付けて、多様な考えを認めながら価値理解を深め、自己や友達の良さを感じることができるよう授業改善を進めていきます。